

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会幼児教育ワーキンググループ（第6回）
議事次第

1. 日時 令和8年3月24日（火）16：30～19：00

2. 場所 文部科学省東館5F6会議室
※ウェブ会議と対面による会議を組み合わせた方式

3. 議題

- （1）乳幼児理解に基づく評価の充実について
- （2）家庭との連携・支援の充実について
- （3）教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の充実について

4. 配付資料

- 資料1 乳幼児理解に基づく評価の充実について
- 資料2 家庭との連携・支援の充実について
- 資料3 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の充実について

乳幼児理解に基づく評価の充実について



【幼稚園及び認定こども園における 現行の評価の仕組み】

- 幼稚園及び認定こども園においては、以下の点に留意しつつ、乳幼児一人一人の理解に基づいた評価が行われているところ。
 - ✓ 評価は乳幼児の発達の理解と指導の改善という両面から行うものであること
 - ✓ 日々の指導と評価は一体になっているものであること
 - ✓ 評価は、指導の改善を図る手掛かりを求めるものであること
 - ✓ 他の乳幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないこと
- 幼児教育においては、評価は、乳幼児の理解に基づくものとしており、この「乳幼児を理解する」とは、一人一人の乳幼児と直接に触れ合いながら、乳幼児の言動や表情から、思いや考えなどを理解しかつ受け止め、その乳幼児のよさや可能性などを理解しようとすることである。
- また、評価の妥当性や信頼性を高められるよう、
 - ✓ 乳幼児一人一人のよさや可能性などを把握するために、日々の記録やエピソード、写真など、評価の参考となる情報を生かす
 - ✓ 複数の教職員で、日々の記録等を共有しながら多面的に幼児を捉えるなどの工夫が重要である。

【幼稚園及び認定こども園における評価の現状と課題】

1. 指導の改善に生かす評価

- 指導の改善に生かす評価を行うに当たり、育みたい資質・能力を育成する観点から自身の指導を振り返ることが十分に行われていないのではないかとの指摘がある。
- 評価の妥当性や信頼性を高める取組としての記録においても、記録が単なる表面的な活動の記述に留まっており、指導の改善に生かす評価の参考となる情報が不十分な記録となっているとの指摘がある。

2. 評価を充実する取組

- 幼稚園及び幼稚園型認定こども園に対する調査によると、評価の妥当性や信頼性を高めるための取組として、「複数の教職員で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的に幼児を捉えている」を選択した割合は78.8%であった。一方、「写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる」を選択した割合は56.2%であった。
- 幼稚園及び幼稚園型認定こども園に対する調査によると、教育活動の記録方法についての回答状況を「手書き」「手書きとICT併用」「ICT」で分類したところ、43.1%の園が「手書き」であった。

※本資料における「認定こども園」は、幼稚園型認定こども園及び幼保連携型認定こども園を対象とする。

乳幼児理解に基づく評価の充実の方向性（案）

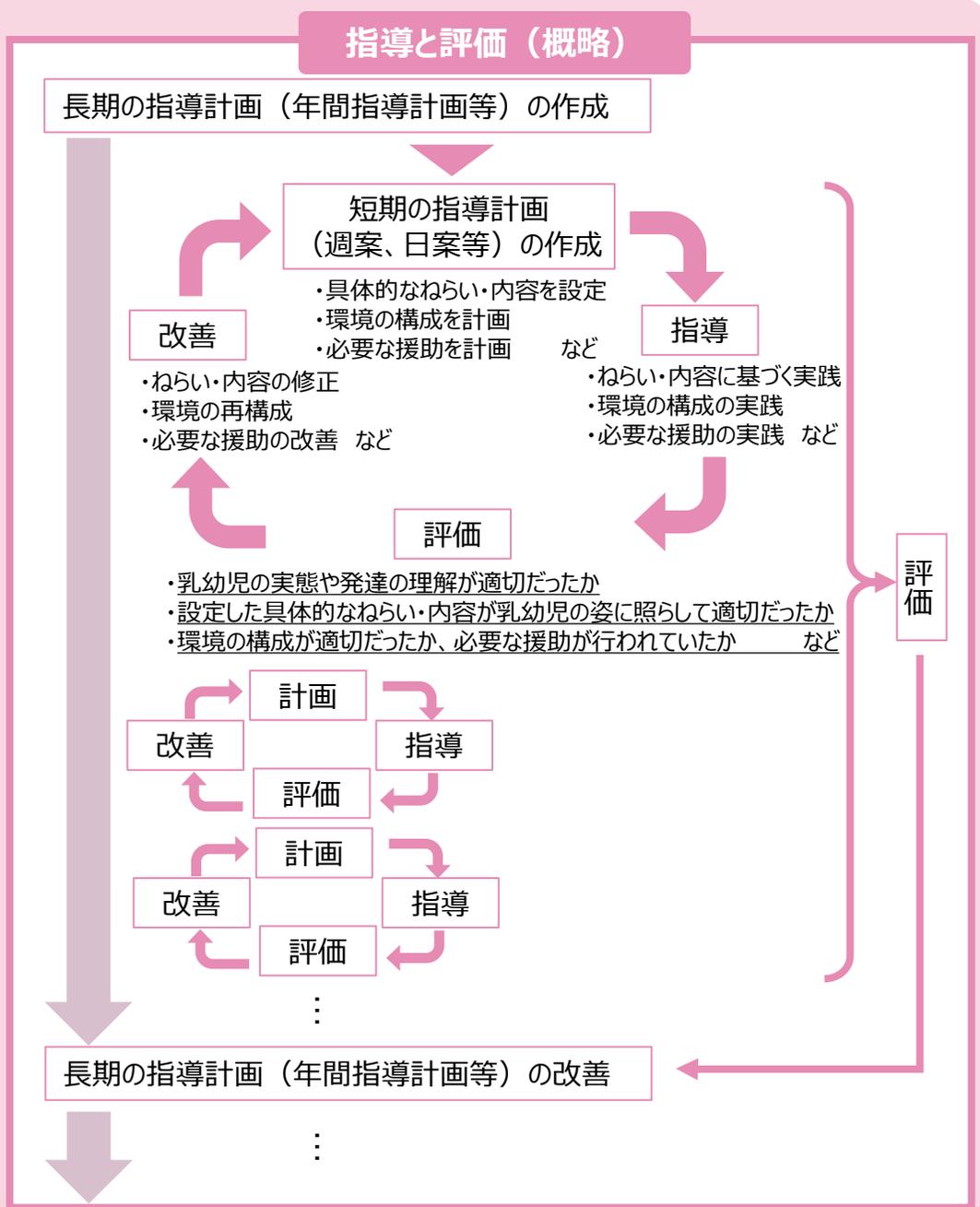
- ◆ 乳幼児理解に基づく評価により指導の改善が図られるよう、以下の取組について明記するとともに、評価に関する参考資料等を作成することが必要ではないか。
- ◆ 指導の改善に生かす評価の充実に向けて、記録の充実や記録を基にした振り返りなどの取組を推進すべきではないか。

1. 記録と振り返りの充実

- 評価の妥当性や信頼性を高められるよう、評価の参考となる情報を日頃から記録し蓄積するとともに、記録を基に自身の指導を振り返ることが重要ではないか。
- 記録に当たっては、指導の改善に生きるよう、単なる活動スケジュール等を記すのではなく、評価の際に右図記載の評価の観点などから振り返ることができる情報を記すことが重要ではないか。
(例) ・乳幼児の表情、しぐさ、つぶやき、行動等
・乳幼児の身の回りのものや出来事への関わり方や友達とのやりとり等
・自身がどう考え乳幼児に援助していたか、どのような言葉を掛けたか等
- その際、写真や動画などを活用したり、ICTを活用して園内で共有したりする工夫も効果的ではないか。

2. 遊びの中の「学び」を見取る視点

- 指導の改善に生かす評価を行うに当たっては、特に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等の観点から自身の指導を振り返り、長期的な視野から育みたい資質・能力（「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」）の育成を捉えようとすることが重要ではないか。
- 具体的には、どのような学びをねらいとしていたのか、そのための環境の構成や必要な援助は適切だったか、実際に展開された乳幼児の活動において、ねらいとしていた学びや予想を超える学びは見取れたのかなど、記録する際や記録を基に振り返る際に、乳幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取る視点をもつことが重要ではないか。 **補足イメージ**



週案 (5歳児9月第2週) (抜粋)

週の保育のねらい (○) と内容 (・)

- 友達とのつながりを楽しみながら、考えを出し合って遊びを進めていく。
- 進んで運動遊びに取り組み、繰り返し試したり挑戦したりする。
- 運動会の競技や係の仕事を楽しみにする。
 - ・自分の思いを話したり、友達の考えを聞いたりして、遊びを進める。
 - ・運動会でやってみたいことを思い浮かべながら、いろいろな運動遊びに取り組む。



指導計画の改善 (ねらい及び内容の修正の方向性)

- 友達と一緒に、進んで運動遊びに取り組み、繰り返し試したり挑戦したりする。
- ・エンドレスリレーをしながら、走る気持ちよさや楽しさを味わう。

9月〇日 (〇) の記録 (抜粋)

朝からリレーをやろうと園庭に出ていく幼児たち(ア)。ジャンケンをして勝った幼児と負けた幼児でチームに分かれる(イ)。

A児の掛け声でリレーが始まると、楽しそうな雰囲気「入れて」と幼児がやってくる(ウ)。B児は仲よしのA児がいる列に並ぶが、「やっぱりこっちにする」と、先を走っているチームの列に並ぶ(エ)、幼児たちは一周して次の走者にバトンを渡すと、すぐに列の後に並ぶことを繰り返す(オ)。バトンを受け取ると勢いよく走り出し、自分の前を走る友達に追い付いたり、追い越したりすることで「速く走れた」と感じている(カ)。そのうち、「どっちが勝っているの?」という言葉が聞かれ、友達と競い合って走ることが楽しくなってきたようだ(キ)。順番を待ちながら「今度は〇〇ちゃんと走れる」と喜び(ク)、「負けないぞ!」と腕を大きく振ってみせる(ク)、アンカーたすきは「やってみたい」という思いで走り終わった幼児が近くにいた友達に渡している(コ)。誰がアンカーで走っているのか分からなくなってしまっても、片付けまでエンドレスでリレーが続いた(サ)。

以下のような学びの姿を捉え、右記3点の方向性で指導計画の改善を図る。
週の保育のねらいのうち、2つ目のねらいを修正し、ねらいに向かうに当たり、内容も修正する。

- ・友達を感じながら一緒に走る楽しさを味わってほしい。
- ・人数調整やチーム分けよりもエンドレスリレーを楽しんでいこう。
- ・人数やチーム分けのことに気付き始める幼児が出てくると思うので、しばらく見守っていこう。

<記録した幼児の姿から「学び」を見取る>

学びが芽生えつつある具体的な姿から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用し、遊びの中の「学び」を見取る

【健康な心と体】、【自立心】、【協同性】、【道徳性・規範意識の芽生え】、【社会生活との関わり】、【思考力の芽生え】、【自然との関わり・生命尊重】、【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】、【言葉による伝え合い】、【豊かな感性と表現】

- ・自分でやりたいことを見付け、自ら取り組んでいる(ア) 【健】【自】
- ・ジャンケンの勝敗によって、2つのチームに分けられることに気付いている(イ) 【道】【数】
- ・楽しそうな雰囲気に心が動き、自ら遊びに加わっている(ウ) 【健】【自】
- ・リレーの様子を目で追って、先を走っているチームが速いと捉え、勝ちそうだと思っている(エ) 【思】【数】
- ・リレーのルールが大まかに分かっている(イ)(オ) 【自】【道】
- ・追い付く、追い越すことで速くなったと捉えている(カ) 【健】【思】【数】
- ・追い付いたり追い越したりして、友達と競争することが楽しく、走ることに自信がきている(キ) 【健】【自】
- ・どちらが速いのかについて、どうしたら分かるのか知ろうとしている(ク) 【思】【数】
- ・走っている友達を目で追ったり、自分の前に並んでいる友達が何人いるか数えたりしながら、誰と走るか見当を付けている(ク) 【思】【数】
- ・速く走るには腕を大きく振るとよいと分かっている(ク) 【健】
- ・目新しさもあり、アンカーたすきに興味をもって、使ってみたいと思っている(コ) 【健】【思】
- ・スピードを感じたり、一緒に走っている友達との比較によって、速く走れるようになっていくことを実感したりして、走ることが楽しく、もっと速く走りたいと意欲的になっている(サ) 【健】【自】【思】

資質・能力が育まれていることを確認する

【知識及び技能の基礎】

- ・ジャンケンの勝敗によって、二つのチームに分けられることに気付いている。
- ・リレーのルールが大まかに分かっている。

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

- ・先を走っているチームが速いと捉え、勝ちそうだと思っている。
- ・誰と走るか、数を数えるなどしながら見当を付けている。
- ・速く走るには腕を大きく振るとよいと自分なりに考えている。引き離したり追い付いたりする様子から、距離を捉えて、速さを判断している。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・自分でやりたいことを見付け、自ら進んで取り組んでいる。友達と競争することが楽しく、走ることに自信がついてきている。
- ・走ることが楽しく、もっと早く走りたいと意欲的になっている。

記録と振り返りの充実のイメージ（例）

保護者に配布するドキュメンテーションを作成する際に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」又は育みたい資質・能力の観点から自身の指導を振り返り、担任等や管理職とが話し合いながら、多面的に幼児を捉えていくイメージ例。

今週のねらい：友達とイメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ

学びを見取る視点

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

or

資質・能力



数量や図形、
標識や文字など
への関心・感覚



社会生活
との関わり

学びに向かう力、
人間性等

知・技の
基礎

A君は電車が好きで、新幹線を製作中。車両同士を連結させるためのいい大きさと長さのある箱を選ぶのも、こだわりポイント！

B君も電車が好きで、図鑑やタブレットで調べていました。A君の新幹線を見て、同じように自分も作り、2人で連結して嬉しそう！

思・判・表
の基礎



思考力の
芽生え



協同性

学びに向かう力、
人間性等

知・技の
基礎

車両の連結部分は、磁石を付けて本当にくっいたり離れたりできるように工夫していました。

別の種別の新幹線も一緒に作ることに became したようです。「こっちに押さえておから、テープよろしくね」「そうそう、いいね！」などと声をかけていました。

思・判・表
の基礎



協同性

学びに向かう力、
人間性等



豊かな
感性と表現

ついに完成！2人で抱き合って喜んでいました。「かっこいいじゃん！」と周りの友達からも誉め言葉を掛けられ、嬉しそう！友達に認められることでさらに自信が付きますね！

「今度は、モノレールを作ろう！」「僕もやりたい！」「この箱がいいんじゃない？」と周りの友達も刺激を受けて仲間入り。友達の輪が広がっていきます。

学びに向かう力、
人間性等

今週は、「友達とイメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ」ことをねらいとしています。美容院ごっこや新幹線作りなどの遊びが見られました。



新幹線作りは、もともとはA君が、大好きな新幹線を、色や形にこだわってそれらしく作ろうと試行錯誤していたことから始まったのですが、ねらいとの関連が読み取れるのではないかとと思うので、その点から振り返ってまとめてみようと思います。

A君は本当に電車が好きですね。これまで様々なものを自分なりに作ってきた経験を生かして、イメージしている新幹線と、目の前にある空き箱などを比較して、よりふさわしい材料を選んでいるのですね。手で持って走らせて遊ぶのにもちょうど良さそうな大きさの箱を選んでますね。A君は1人で作っていたのですか？



B君も電車が好きで、これまでもよく図鑑やタブレットで調べていました。この時は、A君が新幹線を作っているのを見て、「自分も作りたい！」と作り始め、2人で連結させて嬉しそうでした。



車両を連結させるのに、磁石を使ったのですね。よく気が付きましたね。A君が磁石を使うことを思い付いたのですか？



はい。保護者の方と一緒に幼稚園で行った夏祭りの時に、魚釣りコーナーで磁石を使っていたことから思い付いたようでした。磁石の特徴や仕組みに気付いていたので、連結する様子を表現するのに生かされたのではないかと思います。



A君は、B君が自分と同じように作り始めたことを受け入れ、さらに連結させて楽しんでいることから、友達とイメージを共有しながら遊ぶと、より楽しくなると分かってきているのではないかと思います。それから、別の種別の新幹線を友達と協力し合って作り、完成したら抱き合って喜んでいました。こうしたところに協同性が育まれていることが見て取れます。



2人の新幹線刺激を受けて、他の幼児たちも仲間になってモノレール作りが始まりました。



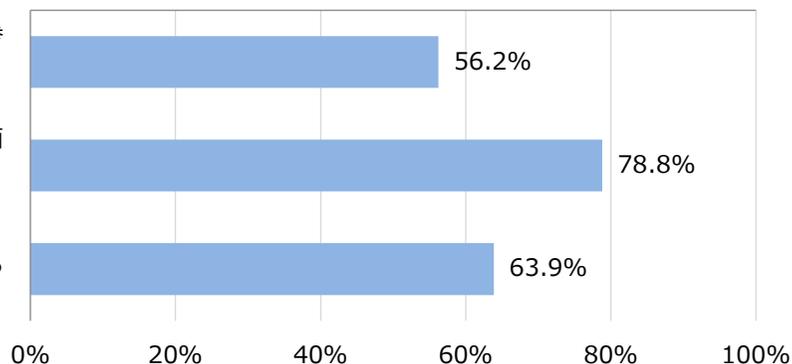
A君が大好きな新幹線をそれらしく表現することにこだわり、連結を表現するなど試行錯誤しながら作っていたことで、魅力的な遊びになっています。モノレール作りもきっとそれらしく作ろうと思うので、これまでの経験を生かしながら、表現したいことが表せるよう、材料を考えて準備しておこうと思います。

參考資料

幼稚園

評価の妥当性や信頼性を高めるための取組

- 写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる
- 複数の教職員で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的に幼児を捉えている
- 教職員同士で保育を見合い、フィードバックを行っている

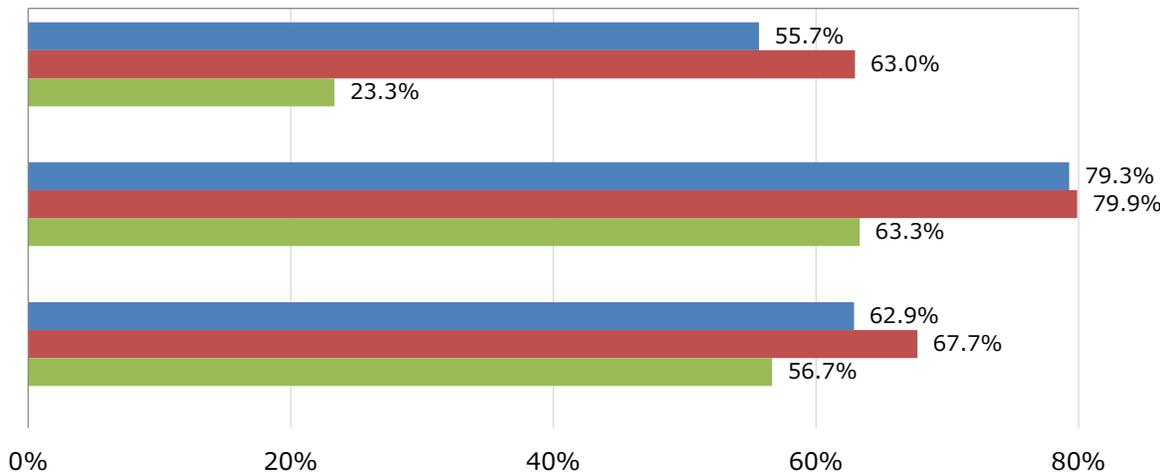


※1 母数：731
※2 複数回答

ICT活用状況別 評価の妥当性や信頼性を高めるための取組

- 写真付きの記録を作成したりエピソードを記録したり等、評価の参考となる情報をできるだけ充実させる
- 複数の教職員で判断の根拠となっている考え方を突き合わせ、多面的に幼児を捉えている
- 教職員同士で保育を見合い、フィードバックを行っている

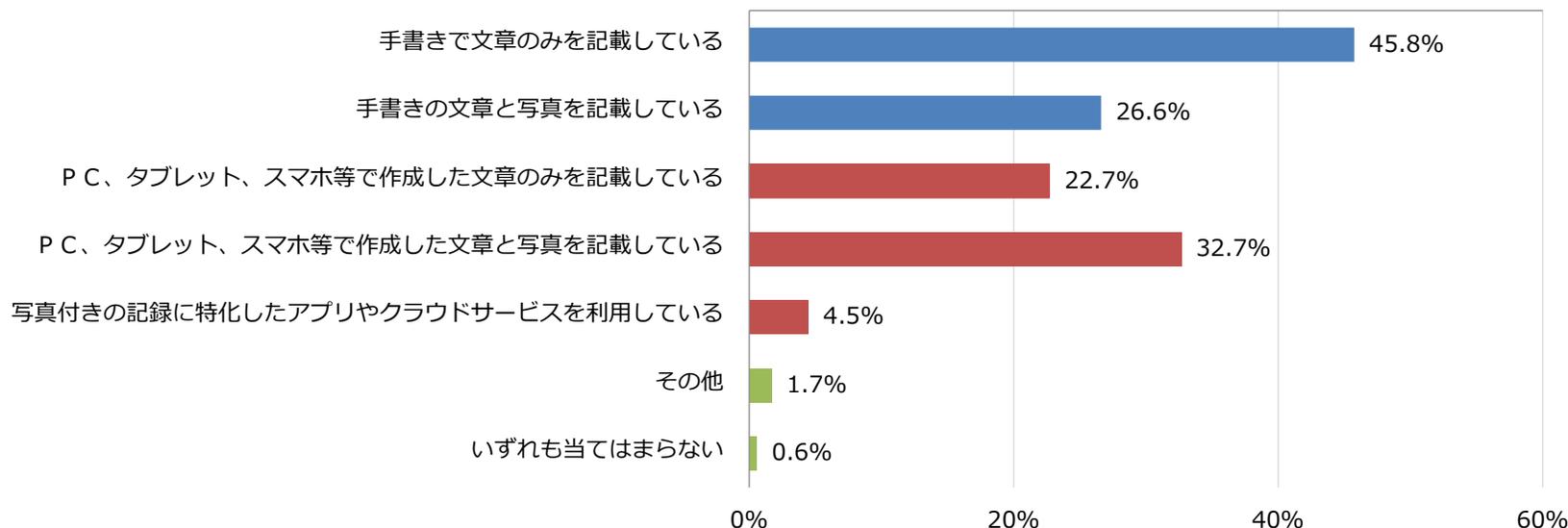
- 園務用ICTあり、Wi-Fiあり(n=512)
- 園務用ICTあり、Wi-Fiなし(n=189)
- 園務用ICTなし(n=30)



※1 複数回答

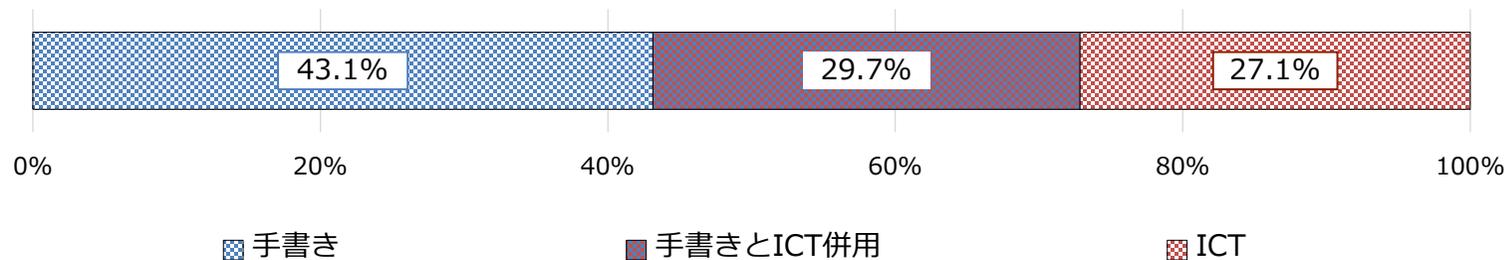
幼稚園

日頃、教育活動に関する記録をどのようにしているか



※1 母数：1,436
※2 複数回答

教育活動の記録方法



※1 母数：1,436
※2 複数回答

家庭との連携・支援の充実について



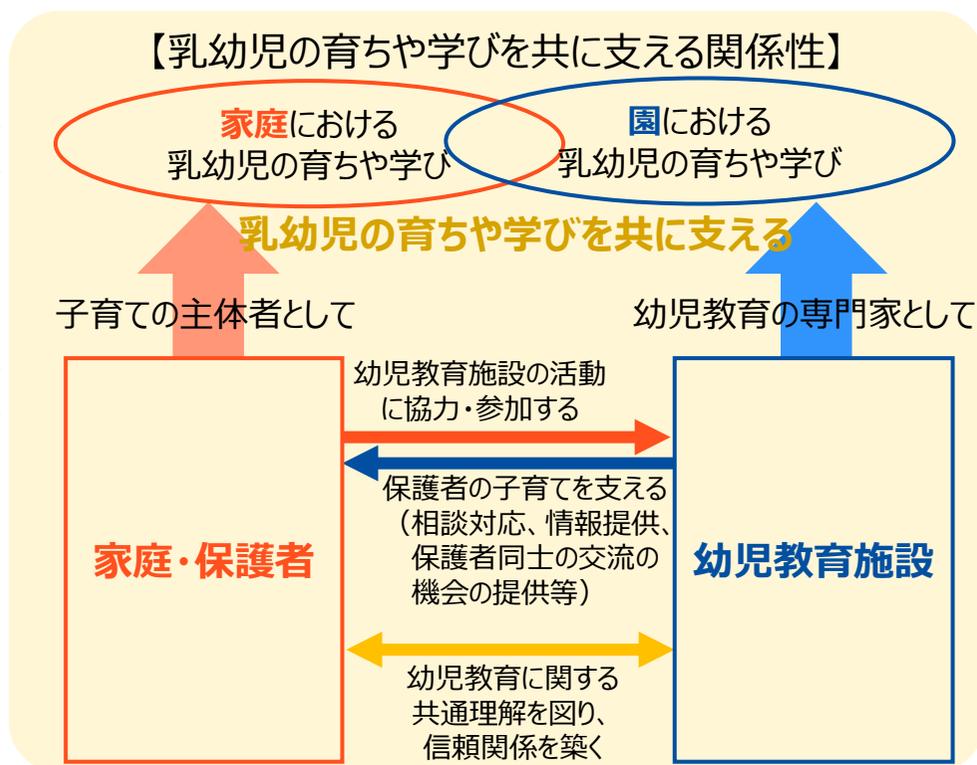
家庭との連携・支援の充実に関する現状と課題

- 乳幼児の健やかな成長のために、幼児教育施設と家庭とが連携することが必要不可欠であるが、幼児教育の基本的な考え方や当該園の目標や方針等について、保護者に十分理解されていない場合があるのではないかと指摘がある。
- 少子化、核家族化、地域コミュニティの希薄化等を背景に、特に幼稚園に在園する幼児の保護者は、入園まで、子育てに関する悩みや不安を相談する場や機会が限られているとの指摘もあり、在園児の保護者に限らず、0～2歳の未就園児の保護者も、幼児教育施設が連携し支える対象である。



家庭との連携・支援の充実に向けた方向性（案）

- 子育ての主体者である保護者と幼児教育の専門性を有する幼児教育施設とが、それぞれの立場から乳幼児の育ちや学びを共に支えることが重要である。幼児教育施設においては、そうした家庭との連携について一層の充実を図るとともに、国においても、その重要性を、幼児教育施設はもちろん、保護者にも十分理解されるよう周知するべきではないか。
- 具体的には、幼児教育施設においては、日常的なやり取りや計画・記録等の掲示・配布を通じて、幼児教育の基本的な考え方や当該園の目標や方針等について共通理解を図るとともに、保護者の子育てを支える取組の充実を図ることが重要ではないか。
- 特に幼稚園においては、在園児及びその保護者だけでなく、園庭・園舎の開放、未就園児の親子登園、公開講座の開催、「こども誰でも通園制度」を活用した取組等により、来園した乳幼児に対して質の高い幼児教育を提供するとともに、その保護者に対しても、乳幼児の育ちや学びを共に支える関係性を築くことが重要ではないか。
 - （具体的なイメージ）
 - ・乳幼児に対して、乳幼児期にふさわしい遊びを存分に体験できる環境を提供するとともに、幼児教育の専門性に基づく関わりや援助を行う
 - 保護者の幼児教育への理解を促進するとともに、我が子との関わり方のモデルを提供する
 - ・乳幼児にとって、保護者との関係を基盤に、他の乳幼児と関わる場になる
 - 保護者にとって、他の乳幼児とも関わる場、かつ、その保護者との交流の場になる
 - 保護者においては、我が子と他の乳幼児の姿を見比べ、安心したり悩んだりする場合があるが、そうした反応に対して、幼稚園教諭等が相談に応じたり必要な情報を提供したりする
- こうした家庭との連携・支援に当たっては、保護者が我が子の姿を肯定的に捉え、その成長や可能性に気づき、子育てを楽しみ、ひいては保護者自身のウェルビーイングにも繋がるという観点を大切にするべきではないか。



教育課程に係る教育時間の終了後等に行う 教育活動の充実について



教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の現状と課題

- 幼稚園や認定こども園においては、「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動」として、いわゆる「預かり保育」が実施されている。
- 保護者の就労形態等の変化により、実施園や参加幼児は増加しており、令和5年度調査によると、定期的又は一時的に実施している幼稚園は全体の90.9%、平日に週5日実施している幼稚園は、定期的に実施している幼稚園全体の92.2%、平日17時以降まで実施している幼稚園は、定期的に実施している幼稚園全体の86.4%である。
- 一方、「預かり保育」という呼称については、ただ預かるだけという誤解に繋がっているとの指摘もあり、教育課程外ではあるものの、幼稚園や認定こども園が行う「教育活動」の一環であることを、保護者をはじめ、実施する園及び社会にあらためて理解される必要があるとの声も大きい。
- また、教育課程内・外において行う教育内容や幼児の体験の繋がりをどのように捉えていかが課題であるとの指摘もある。具体的には、以下の課題が挙げられる。
 - ・教育課程に基づく活動と担当者が異なる場合は、勤務時間の違いから情報共有する時間の確保が難しく、また、担当者が同じ場合は、当該者の勤務時間が長くなったり、教職員同士の打合せや研修の時間の確保が難しくなったりすること
 - ・参加している幼児としていない幼児の間で、体験に違いが出てしまう場合があること
 - ・毎日参加する幼児と単発的に参加する幼児がいたり、一日の参加時間数が異なったりすることを考慮する必要があること
- また、保護者の事情により、例えば11時間在園する幼児がいるなど、長時間在園児にとって充実し、心身の負担が少なく無理のない教育活動の工夫等が必要となっている。



教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の充実に向けた論点（案）

- 幼稚園教育要領においては、「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動」とされているところであるが、あらためて、幼稚園及び認定こども園が行う教育活動の一環として、「標準時間※外の教育活動」であるとの位置付けを再確認してはどうか。
 - ※1日の教育課程に係る教育時間は4時間を標準とするとされている。
- 実施に当たっては、従前のとおり、当該幼稚園及び認定こども園で行う教育活動としての一貫性が図られるよう、教育活動の計画を作成して全体的な計画に位置付けるとともに、地域や保護者の実情を踏まえて弾力的に運用するものとしてはどうか。
- その際、以下の点について整理・周知し、教育活動として一層の充実を図ることが重要ではないか。
 - ①教育課程に基づく活動との関連を図る上での基本的な考え方や具体的な工夫
 - ②教育課程外の教育活動としての充実
 - ・異年齢の交流
 - ・地域との連携・交流
 - ・長期休業中における活動の工夫 等
 - ③幼児の心身の負担への配慮
 - ・家庭生活との連続性への配慮（休息や午睡などの在り方も含む） 等
 - ④体制の整備・情報共有の在り方
 - ・ICTを活用した記録や情報の共有・振り返り
 - ・会議や打合せの工夫 等

參考資料

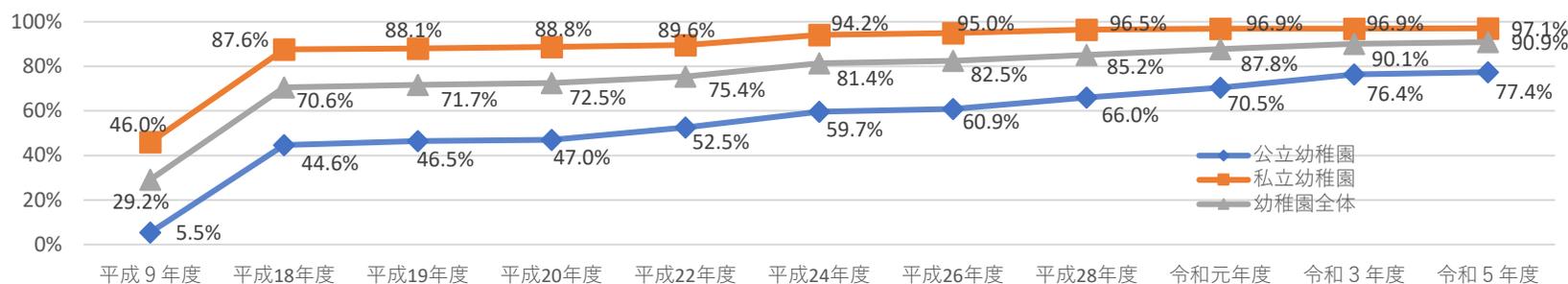
幼稚園における預かり保育実施状況

出典：令和5年度幼児教育実態調査

※幼稚園における預かり保育：幼稚園において、地域の実態や保護者の要請により、教育課程に係る教育時間の終了後等に希望する者（在園児）を対象に行う教育活動をいう。

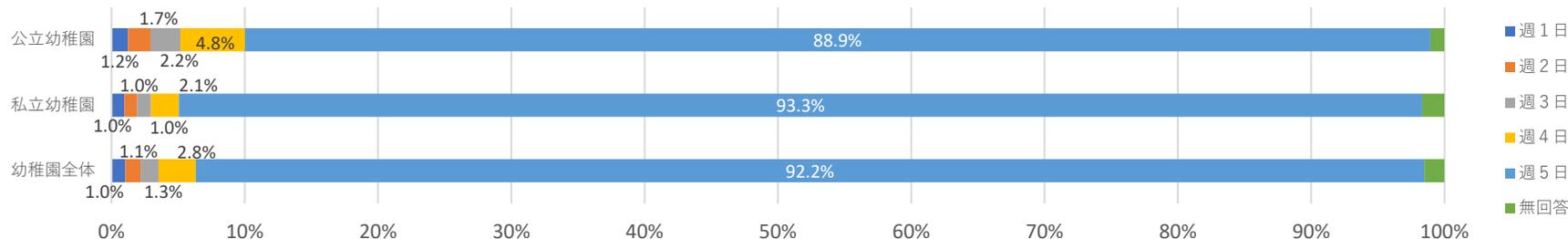
- 預かり保育を定期的又は一時的に実施している幼稚園は、全体の90.9%であった。
- 預かり保育を平日において週5日実施している幼稚園は、定期的に実施している幼稚園全体の92.2%であった。
- 預かり保育を平日17時以降まで実施している幼稚園は、定期的に実施している幼稚園全体の86.4%であった。

・預かり保育を実施している幼稚園



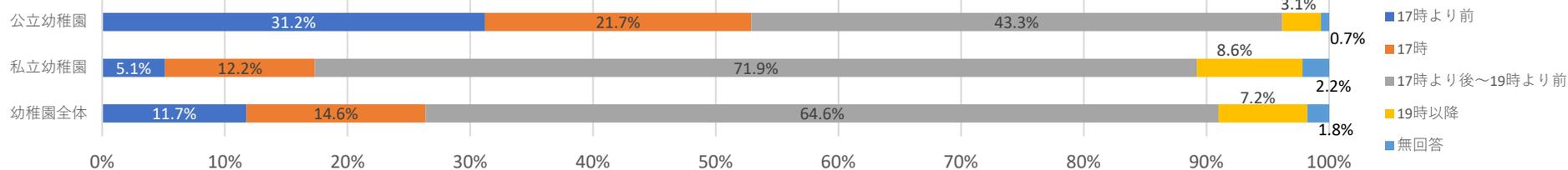
※ 母数：【平成22年度以前】学校基本調査の幼稚園数（幼稚園型認定こども園を含む。以下同じ）
【平成24・26・28年度、令和元年度、令和3年度】調査回答幼稚園数
【令和5年度】8,007幼稚園（公立：2,494園、私立：5,513園）（無回答含む）

・平日の預かり保育実施日数



※ 母数：預かり保育を定期的に実施している7,010幼稚園（公立：1,779園、私立：5,231園）

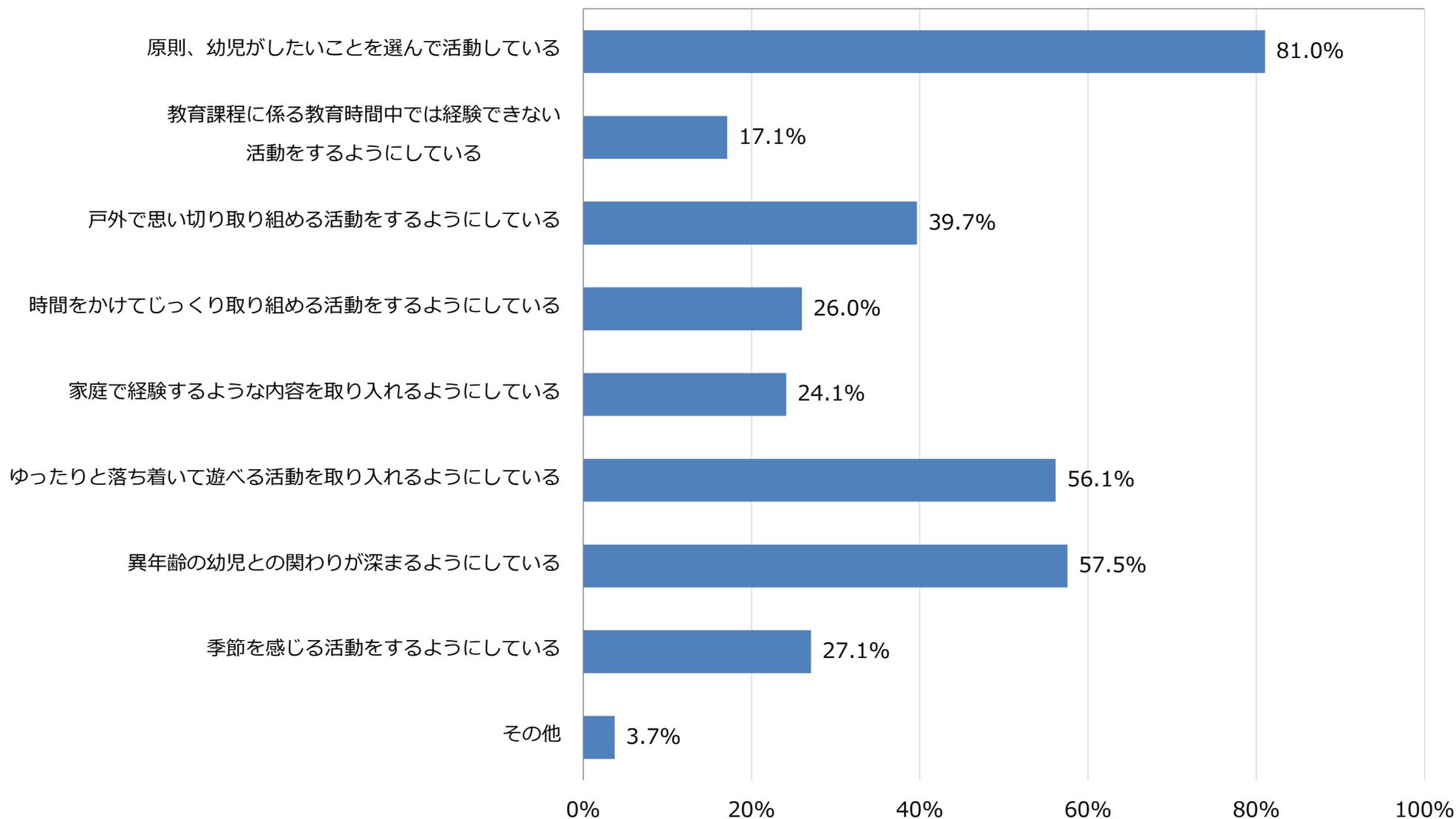
・平日の預かり保育終了時間



※ 母数：預かり保育を定期的に実施している7,010幼稚園（公立：1,779園、私立：5,231園）

幼稚園

いわゆる預かり保育の主な活動



※1 母数：643

※2 複数回答